

『紡ぐ』

2022.1.15 第34号

発行 教育相談室「あした塾」

おんこちしん 温政知新

時間は連続量。
過去、現在、未来と
途切れることなく
続いてきています。

しんぶん。人は節目に特別な思いを持ちます。新しい年
になり、「思い」をあらたにします。「温政知新」とい
言葉を持ち出したが、辞書にある「以前学んだことや、昔の事柄を調べなおしたり、
考えなおしたりして、新たに新しい道理や知識を探り当てること」という意味が、所政が
変わりつつある今の穴水町に当てはまるように思えます。こまごまの穴水町について、しんぶん考
えておませんか！

能登トキ ^{ファンクラブ} 正式発足

今から52年前の昭和45年1月8日に、本州をクッ
たし羽となったトキ「能登のり」が、穴水町の乙ヶ崎で
捕獲されました。その同日、穴水町ふれあい文化セン
ターで「トキ能登」を思ふシンポジウムが開催されまし
た。シンポジウムでは、トキの保護と研究に文字通り、
命をかけてきた96歳になる村本義雄さん(羽咋市)、
トキ能登の捕獲にかかわった穴水町の西柳義章さん、
新崎を育ち、飛翔するトキに出会い、その美しさに魅
了されたという内灘町の河野裕子さんの3人の方が
それぞれの思いを講演されました。

シンポジウムには、名高屋市から参加した人を含め県内
各地から108名が参加しました。そして、この日を機
会として、「能登トキファンクラブ」を正式に発足させま
した。(裏面につづく) (シンポジウム会場)



2022年1月/日の朝。雪。
「良い年になりやすうに」の思い
をこめて歩を進めています。
(穴水町 堀地内の神社)

投稿

福井市 森康晴 さん



森康晴さんは諸
橋出身の方で、現在
福井で仕事をしませ
す。書き初めをした
のを載せてください
送ってください。何枚もありました
が、紙面の都合で、二枚にしました。

本年もよろしくお願ひいたします。

教育相談室「あした塾」 滝井元之



投稿

宮城新聞大所
米田秀雄 さん

こわいのか

風力発電を考える

「風力発電と世界農業遺産、両立できるか？」再生エネルギーは歓迎するが、何事にも「ほどほど」というものがある。最近、戸水も含め、珠洲から中能登にかけて岸根づたいに巨大風力発電が、何と154基も計画されていると聞き、心には信じられなかった。しかも、そのデカさに「正気か、」と怒りがこみあげてきた。プロペラの直径117m、塔の高さ110m、全体的高さ168.5m。削る山の面積は8.45km×8kmで676ha。こんなものを中能登に154基、すでに稼働している小型の73基と合わせて227基。言葉が足りない。

膨大な山林を伐採、表土を削り、巨大風車を支える基礎工事。水源の水質汚染、土砂災害、騒音、低周波、動植物への悪影響。そして、里山の汚染、破壊は里海の汚染につながる。心配するのは、こんな常識外れの事業がそのまま進行する恐れがあることだ。



巨大事業に対する法規制が極めて甘く、工事に問題があっても、途中で差し止める権限が行政にはないのである。罰則規定もない。さらに腹立たしいのは、住民に十分な説明し、理解を得ることが大前提なのに、もうすでに地権者に接触していることだ。

この事業を中止するや、里山里海と折り合う「かわいしい」規模にするが要求していきませんか。

能登のトキ放鳥を目指して

「能登トキクラブ」には大きな目標があります。能登の地に再びトキを飛ばすことです。簡単な事業ではありません。多くの方の力を集めなければ実現は困難です。今後、クラブでは様々な取り組みを進めていきますが、まずは多くの方にクラブの会員になっていただきたいと思います。



(トキの羽根が)

現在、会員は90名ですが、ぜひ入会を。

クラブの入会は、「能登トキクラブ」のホームページで行えます。困難である場合は事務局(宮下源一郎会長宅、電話0768-52-1903)に連絡してください。(事務局)



(トキへの思いを語る)

シンポジウムの内容や様子については北国新聞、北陸中日新聞、他を見てください。(1月9日付) 大きな記事になっています。